

# 穂高岳山行報告

【山行日】2018年 8月 4～6日(土～月)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 27,500円

【メンバー】CL: 鈴木 石川、岩淵、岡、関、藤原、  
松館

4日 晴れ、岩舟支所を出発し、上高地から横尾経由で涸沢小屋へ

岩舟支所P3:00＝「しもまき」6:00/6:20＝上高地

6:40/7:00～明神 8:00～徳沢 9:00～横尾

10:00/10:15～本谷橋 11:10/11:40～涸沢小屋

14:10

今年の夏山ビッグ山行は天気恵まれず、先週の薬師岳縦走も台風の影響で中止となった。

今週は絶対に晴天に恵まれるようにと、願いが通じたのか3日間晴れの予報で天気を心配することなく岩舟支所を出発することが出来た。いつもは岩見平の駐車場に車を止めるが、今回は帰りに温泉を利用するドライブイン「しもまき」の駐車場に車を止めた。



駐車場に車を止めるとすぐに、予約したタクシーが2台到着した。トイレや準備をする間、待ってもらい忘れ物が無いか確認してタクシーに分乗し上高地に向かう。上高地に予定より40分早く着き、早くスタートすることが出来た。バスターミナルから樹林帯の中の舗装道を歩き河童橋に着く。ここで使用前の記念写真を撮り、小梨平のキャンプ場を抜け明神へと向かう、明神、徳沢、横尾と順調に歩き、横尾で少し長めの休憩を取る。横尾はこれから向かう涸沢方面への道と槍ヶ岳方面への分岐で、横尾山荘があり多くの登山者で賑わっている。長いつ

り橋を渡って横尾谷左岸の河原に降り、いよいよ標高差700mを登る登山道が始まる。河原沿いの登山道を歩き、左側には屏風岩の大岩壁が望めるが、クライマーの姿は見る事が出来なかった。沢沿いに樹林帯の道を登り、道が次第に沢床に近づいてくるとやがて本谷橋に着く。吊り橋と河原に降りる簡易橋が併設され、我々は河原に降りる簡易橋を渡って右岸に行く。右岸の長いベンチに腰かけて、ランチタイムとする。本日の山ご飯は野菜入りの味噌ラーメンだが、器を6個しか持って来なく我輩は鍋で食べる。汗をかいた体には、ラーメンの塩分が丁度よく元気が湧いてくる。本谷橋からは急な登りが続き、視界も悪くジグザグの登りで今日のコースで一番つらい場所だ。途中、30分毎に休憩を取り、ゆっくりしたペースで高度を上げて行く。急登を登り切ると傾斜が緩くなり、いよいよ前穂北尾根や吊尾根が木々の間に見えてくる。左の山腹から白いガレが落ちて

いる所がSガレで、冷たい風が心地よい。Sガレを渡り切った先で休憩を取り、水分を補給する。やがて登山道は水の流れる沢の脇を歩くようになり、休憩を取り冷たい沢の水で手を洗う。



ここからは涸沢ヒュッテの吹き流しが見えるようになり、もう一頑張りだねと元気が出る。例年はこの時



季まで雪渓が残るが、今年は猛暑で雪のかけらも見られなかった。やがて岩を並べた階段状の道になり、キャンプ場や涸沢小屋への分岐に出る。我々は右折してキャンプ場を横切り、涸沢小屋へ向かう。小屋への急な階段を登ると、今宵の宿涸沢小屋に行いた。受付を済ませ階下の部屋に案内され、二段ベッドの下の段を7つ確保する。荷物を整理し着替えたら、小屋前のテラスに出て宴会が始まる。良く頑張りましたと乾杯し、前穂北尾根や吊尾根を眺めながら飲む生ビールは最高に美味しかった。17時30分から夕食になり、夕食を食べている間に、明日は4時起床4時

半から食堂前に並ぶよう連絡した。夕食後部屋に戻り、明日に備えて早めに就寝する。

### 5日 晴れ、北穂南稜から北穂高岳に登り、涸沢岳への難ルートを縦走し穂高岳山荘へ

涸沢小屋 6:00～南稜取付き 7:20～北穂高岳 9:05/9:10～北穂小屋 9:15/9:30～最低コル 11:00/11:10～涸沢岳 12:20/12:40～穂高岳山荘 13:00

朝4時に起床し出発の準備を整え、外に出て天気を確認する。天気は上々で、少し雲があるが晴天が期待できそう。朝食は先着順なので4時30分に食堂前に並ぶが、我々のグループは誰も来ない。



どんどん列が長くなり、仕方なく部屋まで戻って皆に並ぶよう促した。5時からの朝食を食べないと、スタートが遅れてしまう。1回目の朝食に間に合い、しっかりとご飯とおかずをいただきエネルギーを蓄える。トイレを済ませたらテラスに出て、登山靴の紐を締め出発の準備をする。5時50分に全員が揃い、ストレッチを行ってから小屋の前で記念写真を撮り、ヘルメットを付けて出発する。小屋から東に50mくらい歩くと北穂高岳への標識があり、左に登山道を登って行く。しばらくは北穂沢の右岸に付けられたガレ場を登るが、登山道は良く整備さ

れ歩き易い。しばらく登ると今までの道とは違い、お花畑の中をジグザグに登るようになる。お花を見ながらゆっくり登り、何組かに追い抜かれてゆく。少し広い平らな場所で休憩し、水分を補給する。眼下には涸沢ヒュッテと色とりどりのテントが小さく



なって見えた。露岩帯の登りを2箇所越え、ハイマツが現れるとお花畑が終わり北穂沢のゴー口に入る。踏み跡と白いペンキマークを見逃さないよう慎重に登る。ゴー口を直上し右手に大岩が見える所で道は左に折れる。

この先が北穂南稜コース最大の難所、80mのクサリ場が待ち構えている。

クサリ場には何人か順番待ちで並んでいた。我々も最後尾に並び、順番に鎖に取りつく。クサリ場は下



段と上段の2段に分かれ、取り付部と上段の最後が難しい。でも登ってみるとホールドとスタンスが豊富にあるので、慎重に登れば問題なく通過出来る。登り切った南稜の一角は、奥穂高岳から前穂高岳、前穂北尾根が一望でき素晴らしい景色が広がっている。安全な場所で休憩し、眺望を楽しみながら菓子を食べる。ここからも急登が続き、あちこちで登山者が休憩し、抜きつ抜かれつしながら高度を稼ぐ。もう一汗かいたところ2番目のクサリ場に出て、高度感はあるが問題なく通過できる。岩場を登ると視界が開け道も良くなり、南稜のテント場に出る。

テント場の左端を登ると南峰直下の分岐に出る。分岐を右に進み北穂沢の源頭をトラバースし、松濤岩の科尔を通過する。ここから最後の急坂を登り切ると、北穂高岳北峰の山頂へ出る。

標高3106mさえぎる物が無い山頂は、北に槍ヶ岳、南に奥穂高岳から前穂高岳等々が望め日本アルプスで一番の眺望が得られる。日本一の眺望をゆっくり楽しんだら、直下の北穂高小屋に行く。小屋からの眺望も素晴らしく、冷たい飲み物を買ってのどを潤す。眺望を楽しみトイレを済ませたら北穂高岳に戻り、涸沢岳に向かう。北穂高岳から南峰直下の分岐まで戻り、分岐を右に奥穂高岳方面へ進む。



ここからが穂高岳登山のハイライトで、3000mの岩稜帯を行くコースは、クサリ場等の連続で気が休まる所が少ない。分岐からいよいよ岩稜帯の縦走路に入り、ペンキマークや踏み跡を探しながら岩場を下って行く。右手が滝谷、左手は涸沢まで見え高度感がハンパ無い。気分は最高だが落石に注意しながらクサリを頼りに慎重に歩を進める。ドーム基部をトラバースするが、切り立った絶壁は高度感があり緊張する。ドームのナイフでそいのような岩壁の下を、涸沢側を巻いて下るとクサリ場が現れる。

3点支持で慎重に下り、登り返したところの平らな岩で休憩を取る。涸沢のテント場や前穂北尾根が良く



見え、明日登る奥穂高岳や吊尾根もすぐそばに見えた。I 溯さんに「二子山で岩登りのトレーニングしておいて良かったでしょう」と言うと「まだまだ大丈夫、二子山の方が大変だったから」と返ってきた。この時はまだこのコース最大の悪場、涸沢岳への登りを知らない。ここから最低科尔まで慎重に下り、科尔から小ピークを越えると道は滝谷側へ。ここからクサリ場が連続するが、足場を良く確認しホールドをしっかりつかんで登って行く。3つあるクサリ場を越えると涸沢槍の先端近くに出て、滝谷側から巻いて涸沢側に出る。下った所がD沢の科尔で、休憩すると雷鳥の親子が登山道で砂浴びをしている。

雷鳥親子に癒されたら涸沢岳への登りにかかる。D沢の科尔から涸沢側へ回り込み、オダマキの科尔に出る。ここから上部が本日の最難関、涸沢岳への登りが始まる。

クサリ場が連続し、上部は岩が覆いかぶさるように迫っている。ペンキマークを確認しながらルートファインディングをし、あわてずに一步一步確実に登って行く。クサリに沿って登って行き、いよいよ最後のクサリ場だ。凹角状の中にクサリが垂れていて登りにくく、最後の乗り越す部分が最も難しい。でも皆さん上手に登り、クサリ場を越すと安全地帯に出る。ここから涸沢岳山頂まではほんの50mほど。山頂で大休止し、明日登る奥穂高岳やジャンダルム等の岩峰群に圧倒される。I 淑さんも「スーさん二子山より断然難しいです。スーさんがこのコースを登らないと穂高の良さが分からないと言ったことが良く理解できました」と感動していた。「小屋に下ろう」と言っても、「もっとこの景色を眺めていたい」と満足した様子。穂高岳山荘まで下り、受付を済ませたら山荘前のテラスで遅い昼食を食べる。昼食が済んだら部屋に入り、荷物を整理して着替えを行う。今日は空いていて、一人1枚の布団でゆっくり寝られそう。ゴミも捨てられ、トイレや洗面所も沢山あり快適な山小屋に満足していた。明日の準備まで済ませたら、外のテラスで宴会が始まる。ビールで乾杯したが、ビールがいまいち冷えてなくあまり美味しくない。途中からワインに切り替え、皆さん今日の難コースを登り切った満足感で会話も弾み、笑顔が弾けた。今日は1回目の5時からの夕食なので、5分前には切り上げて食堂に行く。夕食を食べながら、明日も4時30分から食堂に並ぶよう伝える。



夕食後、外に出て夕日の写真を撮ったら部屋に戻り、明日に備えて早めに就寝する。

**6日 晴れ 穂高岳山荘から奥穂高岳山頂に登り、紀美子平から前穂高岳をピストン後、岳沢小屋へ下り、上高地に下山し帰路につく。**

**穂高岳山荘 5:40～奥穂高岳 6:30/7:00～紀美子平 8:15/9:40～岳沢小屋 12:00/12:30～上高地 14:10/15:20～「しもまき」16:10/17:10＝岩舟支所P20:30**

今日も朝4時に起き空模様を確認し、天気予報を確認する。今日も一日晴天の予報に、ホッと胸を撫



でおろした。3日間晴天に恵まれ、神様に感謝・感謝である。4時30分に食堂上の階段に並ぶと、今日は皆さんも来たがまだ時間に対する自覚が足りない。無事1回目の朝食をいただき、朝食を食べながらご来光を拝めた。準備を整えたら外に出て、登山靴を履きストレッチを行う。山荘前で写真を撮り、奥穂高岳への登山道に取りつく。山荘から南の岩壁を登って行くが、いきなりハシゴやクサリが連続し、最初から緊張を強いられる。一つ目のハシゴを

登った所で上から声がし、「下りが4人行くので待っていてほしい」との事。それぞれ安全な場所で待機し、風が強く寒いので上衣を着て待つよう指示する。4人の通過を見送って、山頂目指して登って行く。ゆっくりしたペースで登り、途中山頂ピストンの軽装の登山者に追い越される。ハシゴ場を登り切ると傾斜が緩くなるが、岩が敷き詰められたトレイルは気が抜けない。行く手に奥穂高岳の山頂が見えるようになり、ジャンダルムの岩峰が見え隠れする。

登った所で上から声がし、「下りが4人行くので待っていてほしい」との事。それぞれ安全な場所で待機し、風が強く寒いので上衣を着て待つよう指示する。4人の通過を見送って、山頂目指して登って行く。ゆっくりしたペースで登り、途中山頂ピストンの軽装の登山者に追い越される。ハシゴ場を登り切ると傾斜が緩くなるが、岩が敷き詰められたトレイルは気が抜けない。行く手に奥穂高岳の山頂が見えるようになり、ジャンダルムの岩峰が見え隠れする。



山頂に着くと先行した登山者が写真を撮っており、順番を待って我々も記念写真を撮る。山頂は狭く、北側に祠と山頂の標識があり、南側には方位盤が据えられている。両方で記念写真を撮ったらすぐ先の



広場で大休止し、槍ヶ岳や立山連峰、笠が岳、ジャンダルム等々の大展望を楽しむ。展望を楽しんだら前穂高岳に向かって吊尾根を進む。奥穂高岳と前穂高岳を結ぶ尾根は、上高地から見ると、まるでピークとピークを吊り橋で結んだように見えることから吊尾根と呼ばれるそうだ。遠くから見るとなだらかな尾根で歩き易そうに見えるが、実際歩くと岩場とガレ場のミックス地帯でアツプダウンも結構きつい。

途中、中国人のグループに追い越され、後を追いかけるがとても早く、アツと言う間に離された。南稜ノ頭からは、こんなに下るのかと思うほど道はグングン高度を下

げて行く。クサリ場を過ぎても下り、結局最低コルまでは300mほどの下りだ。最低コル手前の白いザ

レ場で休憩し、ジャンダルムから西穂高岳の稜線を眺めて体を休める。最低コルの先で右にトラバースし、紀美子平へ向かって進む。紀美子平には大勢の登山者が休んでおり、ここにザックをデポして前穂高岳に登る人も多い。我々もここにザックをデポし前穂高岳をピストンで登るが、F原さんが「足が痛いので、脚を下りに温存したい」と言うので我輩も残ることとした。SLの松ちゃんに山頂までのリードをお願いし、5人で前穂高岳山頂を目指す。

前穂山頂から5人が戻り、岳沢に向かって重太郎新道を下って行く。紀美子平直下から、いきなり一枚岩の長いクサリ場が始まる。傾斜はさほどではないが、岩が平坦でスタンスが少なく滑りやすい。

クサリを頼りに慎重に、靴底のフリクションを効かせながら降りて行く。大変だと言っても、昨日の岩稜



帯の下りからすると問題なく下れた。ハシゴやクサリが連続するが、眼前に西穂高岳から奥穂高岳に連なる荒々しい岩稜を眺めながらの下降は、アルペンムードがいやがおうでも盛り上がる。

岳沢パノラマを過ぎると危険箇所は無くなるが、ハシゴや短いクサリ場はまだまだ現れる。カモシカ立場下の最後のハシゴを下り、木陰で小休止し残った菓子やパン食べエネルギーを補給する。しばらく下ると山腹をジグザグに付けられた道を下るようになり、マルバダケフキやトリカブト、クガイソウ等が咲くお花畑の間を下る。樹林帯に入り緩やかに下ると岳沢のキャンプ場の間を下り、



岳沢の河原に降りる。竹竿の案内に従って岳沢を渡り、石段を上がると岳沢小屋に着く。小屋の前の石の大きなテーブルを借り、昼食のラーメンを作る。作っている間に、皆さんはトイレを済ませたり冷たい飲み物を買ったりしていた。

熱い味噌ラーメンとアンパンを食べ、朝から歩き続けた体に元気がよみがえった。昼食を食べたら上高地に向かって下山する。ヒュッテから岳沢の右岸に沿って下り、途中から岳沢を横切って左岸に渡る。途中から樹林帯の中を下るようになり、岳沢風穴を過ぎるとあと一時間だ。樹林帯に付けられた木道や



能でき思い出に残る山行になった。

登山道を緩やかに下り、道が平坦になると岳沢登山口に出た。

ここから遊歩道を10分程歩くと、観光客で賑わう河童橋に着く。河童橋で使用後の記念写真を撮り、ここから自由行動で2時40分バスターミナル集合とする。我輩はバスターミナルまで行き、観光センター売店でかき氷をゲットいただく。乾いたのどには最高の御馳走で、かき氷がこれほど旨いのか感動した。バスターミナルからタクシーに乗り、「しもまき」で温泉に入って蕎麦を食べ帰路につく。高速に乗り姨捨SAでお土産を買い、無事に岩舟支所に帰着した。3日間晴天に恵まれ、最高の穂高連峰を堪

